

ユーザ主導のセマンティックWeb

セマンティックWebコンファレンス2006
パネルディスカッション「セマンティックWebのこれまで、今、そして未来」
プレゼンテーション資料
2006.1.27

日本電信電話株式会社
NTT情報流通プラットフォーム研究所
佐藤 宏之



(c)2006 NTT Information Sharing Platform Laboratories. All rights reserved.

参加のスタンス

- これまで、ユーザのアクティビティやコンテキスト(背景情報)をセマンティックWebの知識表現を利用して明示化し、再活用するシステムを構築してきた
- 実は2002年に以下のスタンスでパネルディスカッションに参加していた
 - タイトル:セマンティックWebの理想は実現するか? 皆が貢献し恩恵を受けるネットワークサービス
- 今もあまり変わっていないかも



(c)2006 NTT Information Sharing Platform Laboratories. All rights reserved.

これまでやってきたこと

- P2Pを用いたメタデータの流通プラットフォーム(2002・2003年のコンファレンスで紹介)
 - Webブックマークのような簡単な操作でコンテンツ間の関係を登録できるアプリケーションも開発
- Semantic iタウンページ(2003・2005年に紹介)
 - iタウンページデータとユーザアクティビティや広告から抽出したメタデータやオントロジによるポータル
- CSM(今年)

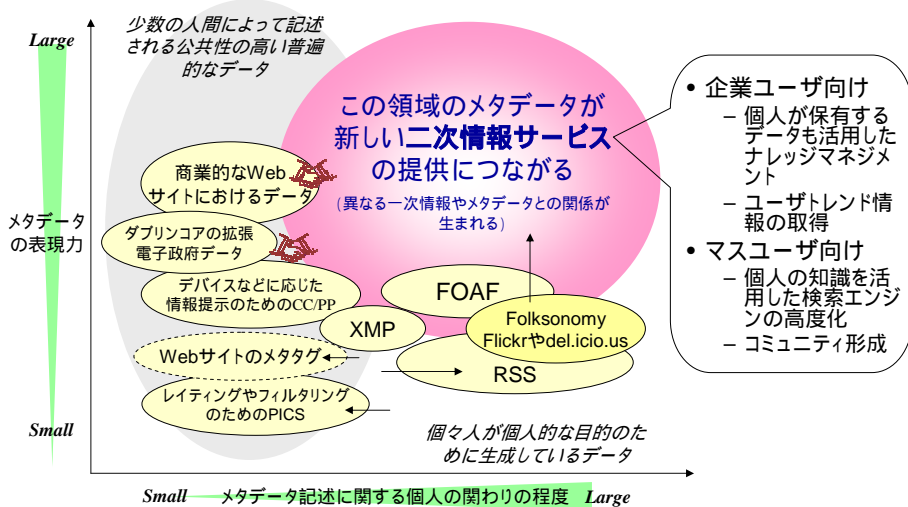


興味のある方はINTAPのWebサイトに掲載されている過去のセマンティックWebコンファレンスの講演資料を参照してください



(c)2006 NTT Information Sharing Platform Laboratories. All rights reserved.

Web上のメタデータの今と未来



(c)2006 NTT Information Sharing Platform Laboratories. All rights reserved.

セマンティックWebの未来に向けて

- RDFの標準化とURIによって実現した知識表現の相互運用性はここにきて活用され出した
- 情報の再構成によって、どれだけ有効な知識を発見できるかがカギ
- ユーザアクティビティの活用によるデータ同士をつなぐメタデータの生成がますます重要
- 次世代Web(= Web2.0 ?)の流れにのったユーザ参加型データの増大に期待